

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100666
法人名	有限会社やわらぎ
事業所名	グループホームいくし
所在地	愛媛県松山市生石町472
自己評価作成日	平成23年11月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>気づきを大切に、個々に合ったケアが出来るように、業務も状況に応じて柔軟に対応するように努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>年1回、事業所主催の家族会を行っておられ、ほとんどのご家族が参加されている。毎年、家族会の前には、ケア等についてのアンケートを取っておられ、アンケート結果は、職員ミーティングで話し合ったり、家族会時にも報告されている。事業所では、利用者がけがしたり、体調を崩した時には、必ずご家族に報告するように気を付けておられる。年4回「いくし便り」を発行して、行事や日々の生活の様子を載せて、ご家族の来訪時に手渡しされている。</p> <p>管理者は、職員の利用者への「接し方」や「声かけ」の大切さについて、よく話しておられる。調査訪問時の昼食時間、むせやすい利用者の方に、職員は、利用者のペースで食事ができるように「休まずか？」「食べますか？」とお聞きして、利用者の表情や反応をみながら介助されていた。利用者への声かけは、利用者個々の状態に合わせて、声をかけるか、そっと見守るか等を考えられたり、声のトーンや早さ等にも配慮されている。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームいくし

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

鶴居博子

評価完了日

平成23年 11月 8日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 開設時より理念に挙げ、運営推進会議などを通して、地域とのつながりを深めたいと努めているが、日常的な実践まではできていない。	
			(外部評価) 事業所は、今年度、法人が移行されたが、職員体制に変わりはなく、前法人の理念をそのまま継続しておられる。管理者は、理念の中で、特に、「自分の感情を出せる生活」を大切にしたい支援を行っていきたくて考えておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 以前より防災訓練などには参加させてもらっていたが、今年度から町内会に加入。地域の一員として日常的に交流できるよう努めていきたい。	
			(外部評価) 今年度から町内会に加入され、町内で取り組んでいる赤い羽根募金に協力されたり、地区の運動会のプログラムに広告を載せる等された。秋祭りには、事業所に子供神輿が来てくれ、利用者は神輿や子ども達と一緒に写真を撮る等された。又、職員は、利用者と回覧板を回したり、近くのコンビニに買い物に行ったりされている。以前、小・中学生の職場体験を受け入れた経験があり、継続できるよう学校に依頼されているが、お互いの都合が合わず実現には至っていないようだ。「地域とふれあえる環境作り」を事業所理念に掲げておられるが、現在、利用者の重度化に伴い、地域に出かけていくような取り組みは難しいようである。管理者は「今後、その時々状況に応じて取り組んでいきたい」と話しておられた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議を通して、認知症への理解や支援の方法と一緒に学ぶ機会を持っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	(自己評価)	(外部評価のみ)
			<p>毎回近況を報告し、ご家族等の意見や要望を伺っている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	(自己評価)	(外部評価のみ)
			<p>運営推進会議上で、実地指導時を通して協力関係を築くように努めている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	(自己評価)	(外部評価のみ)
			<p>ミーティング、勉強会などで、職員間で例えば言葉による拘束についてなど「拘束とは」について学び、身につくように努めている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>落ち着いた状態の利用者の居室には、入り口の戸を開けると音が鳴り、職員が気が付くようになっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 年に1回は勉強会を設け虐待防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会があれば参加し理解を深めるようにしている。後見制度も利用していた。今後は、全職員が理解を深め、活用できるように努めていきたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、内容を確認しあい、理解と了承を得るように努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会時や日々の面会時などに意見や要望を聴く機会を持ち対応に努めている。また運営推進会議などでも意見を出していただいている。 (外部評価) 年1回、事業所主催の家族会を行っておられ、ほとんどのご家族が参加されている。毎年、家族会の前には、ケア等についてのアンケートを取っておられ、アンケート結果は、職員ミーティングで話し合ったり、家族会時にも報告されている。事業所では、利用者がけがしたり、体調を崩した時には、必ずご家族に報告するように気を付けておられる。年4回「いくし便り」を発行して、行事や日々の生活の様子を載せて、ご家族の来訪時に手渡しされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			ミーティングなどで意見や提案を聞く機会を設け反映できるように努めている。	
			(外部評価)	
			「職員同士の意思の伝達がもっと出来れば、ケアの向上につながるのではないか」という職員の提案から、毎月の職員ミーティング以外にも、ケアについて話し合いが必要な場合は、臨時にミーティングを行っておられる。職員が持ち回りで議題を決めて2ヶ月に1度は、ミーティングの後に勉強会を行っておられる。勤務中、1時間は休憩が取れるような体制が作られている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			いろいろ難しい面はあるが、やりがいを持って働けるよう取り組み努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			法人内外の研修を受ける機会の確保、環境ができています。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			同業者と合同研修会を開催したり、新人職員のための相互研修に参加しサービスの質の向上に努めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			本人の不安、要望を聴き把握し、安心して生活ができるように努め取り組んでいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ゆったりと話しやすい雰囲気になるように努め、気になることを率直に話せる関係作りに努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>上記より得た「その時」をケアプランに反映し、必要としている支援対応に努めている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>互いに助け合い生活をしているという関係を築くように努めているが、利用者さんの重度化とともに難しい場合も多くなってきている。</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>暮らしぶりを便りを通して知ってもらったり、面談時、近況を伝えて、程よい関係を築けるように心掛けている。具体的には、外出、通院支援や日常的な係わり合いを通して家族の絆を大切にしている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族、親戚の方、知人の方などが面会に来られている。一層気軽に来られるような雰囲気作りに努めている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>利用者が大切にしてきたことを継続できるような支援に取り組んでおられ、利用者の希望や体調をみながら礼拝堂に出かけることを続けられるよう、サポートされている。又、利用者によっては、昔の職場の方が度々会いに来てくださっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の重度化に伴い積極的な関わり合いは少ないが、利用者同士の関係を観ながら、食卓の席を配置し、その中で互いに心遣いや関わり合いが持てるように努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 状況に応じて相談や支援ができるように努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 介護記録や家族の話を通して、本人の意向や希望の把握に努め、ケアプランに反映できるように取り組んでいる。 (外部評価) 日々の介護記録に、利用者が発した言葉や、職員の声かけや対応を記入されており、その中から利用者の思いや意向、馴染みのことを知り得てセンター方式の様式を用いて、情報を集めておられる。状態が不安定な利用者は、センター方式の24時間生活変化シートを活用して原因を探り、支援を検討して計画作成につなげておられる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 機会あるごとに本人やご家族から話を伺い出来る限り把握できるように努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 心身の状態を介護記録に留め、現状の把握に努めている。また、職員が気づきの力をつけるように努めている。しかし、有する力を把握しながら発揮する機会を作れないなどが課題としてある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>毎月の全員参加のミーティングで話し合い、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>毎月ミーティング時にモニタリングを行っておられ、達成状況に応じて見直したり、計画を変更されている。計画、モニタリングを記入した用紙は3ヶ月毎にご家族にみてもらうようになっている。外出がお好きな方は、ご本人の行きたいところが支援内容に具体的に示されている。ご家族の来訪時、ケアへの希望や要望をお聞きして、計画に採り入れるようにされている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>個々の記録はその時の状況に応じて、記載事項を増やしたり、個別の情報シートを使って、職員が情報を共有しやすいように取り組み、職員全員が共有し実践できるように努めている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>状態、状況に応じて、グループの事業所と連携を取り、柔軟に対応出来るように努めている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>状態、状況に応じて、グループの事業所と連携を取り、柔軟に対応出来るように努めている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>支援に努めているが、現状において、ご利用者の重度化もあって積極的に地域資源と協働できていない。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>支援に努めているが、現状において、ご利用者の重度化もあって積極的に地域資源と協働できていない。</p>	
			(外部評価)	
			<p>支援に努めているが、現状において、ご利用者の重度化もあって積極的に地域資源と協働できていない。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>その時に応じて、適切な医療を受けられるように取り組んでいる。</p>	
			(外部評価)	
			<p>建物の1階に内科病院があり、利用者は2週間に1度受診されている。受診することが難しい利用者は、往診を受けておられる。週1回、看護師が来て、利用者の様子を見たり介護記録等から個々の状態を把握して健康管理をしてくださっている。他科を受診される場合は、ご家族が付き添われるが、ご家族の都合に合わせて職員が同行されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>医療連携機関の看護師に不安な事柄について、率直に質問、相談し適切な受診につなげている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>医療機関と連携し、安心安全に暮らせるように努めている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	(自己評価)	
			<p>医療機関と連携し、安心安全に暮らせるように努めている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>医療機関と連携し、安心安全に暮らせるように努めている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>契約時に看取りの方針を説明し、その都度の状態、状況の変化にに応じて、ご家族や主治医と連携を取りながら方針の共有化に努めている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>今年4月、事業所で看取りを支援した事例がある。これまでも事業所で最期まで過ごすことを希望された方が多く、管理者、職員ともに「看取りは当たり前のこと」と捉え、ご家族と協力して、医師、看護師と連携を図りながら支援されている。職員は、外部研修等でも看取りについて勉強されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急の研修を受けたり、事業所内で勉強会を開き、適切な対応が出来るように取り組んでいる。さらに全員が身につくように定期的な訓練に努めていく。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練を実地し、特に夜間を想定した訓練も行なっている。 (外部評価) 事業所が移転して、建物の2階部分に所在するグループホームとなり、環境が変化したことからも、今年5月の避難訓練時には、避難経路の確認をされた。11月には、建物1階にある病院と合同で訓練を行い、消火訓練や夜間通報の手順の確認をされた。地域の消防訓練にも毎回職員が参加され、何かあれば町内会長、民生委員の方が、駆け付けてくださるようになっていた。法人の厨房内には、2日分程度の水と食料を確保されている。	利用者の状態や、又、建物の条件・職員の体制等、いろいろな状況を踏まえ、避難訓練を重ねていかれてほしい。さらに、災害時に備えて今後も、地域とのネットワーク作りをすすめていかれてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々の中で言葉かけや対応が、適切かどうか振り返り、職員全員が身につくように努めている。 (外部評価) 管理者は、職員の利用者への「接し方」や「声かけ」の大切さについて、よく話しておられる。調査訪問時の昼食時間、むせやすい利用者の方に、職員は、利用者のペースで食事ができるように「休みますか?」「食べますか?」とお聞きして、利用者の表情や反応をみながら介助されていた。利用者への声かけは、利用者個々の状態に合わせて、声をかけるか、そっと見守るか等を考えられたり、声のトーンや早さ等にも配慮されている。利用者の誕生日には、ご本人が好きなものを事業所で手作りされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来る限り、本人の思いを聴き、自分で決められるような支援に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	可能な限りの支援に努めているが、集団生活の中では全利用者の意向に添っての支援が難しい場面もある。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価)	その時のご利用者の状況に応じて支援できるように取り組んでいるが、不十分な面も見られるので徹底できるように努める。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	その時、その時のご利用者の状態に応じて支援に努めるようにしているが、現状況下では個々に合わせた形態で食事が出来るように支度を整え、安全に食事をしていただくことを優先している。	
			(外部評価)		
				法人の厨房で作った食事が届くようになっている。届いた食事を事業所で職員が利用者個々の状態に合わせて、刻む、ペースト状にする、とろみを付ける等、調理されている。誤嚥しやすい利用者もおられ、事業所では安全を第一に考えて支援され、職員も同じものを食べながら介助されている。胃ろうを造設している利用者も、ご家族が手作りのプリンやムースを持参されて、口から食べることを楽しまれている。調査訪問時、昼食後には、ご自分のお膳を下げる方もみられた。週に数回、食事介助にご家族が来られている方もある。食事支援は、グループホームの生活支援の特長でもあり、「食事を楽しむ」という観点からも支援に工夫されてみてほしい。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	個々に合わせた水分量や食事量を把握し、支援に努めている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価)	個々の状態に応じて対応し、口腔内の清潔が保てるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	(自己評価)	
			<p>個々の排泄のリズムやできる力を観ながら、可能な限りトイレで排泄できるよう努めている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>入居間もない頃、落ち着かず頻回にトイレに行く方がおられたが、職員は、見守りを続け、事業所での生活に慣れて来られるごとに状態は落ち着かれたようだ。トイレ以外の場所で排泄するような利用者については、職員の観察や気付きから「トイレ」の表示を「便所」に替えたところ、ご本人に分かりやすくなり、又、タイミングをみて声かけすることで、トイレで排泄できるよう改善された。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>飲食物の工夫や下剤の調整など個々に応じた予防に取り組んでいる。運動への働きかけが不十分なところもある。</p>	
			(外部評価)	
			<p>出来る限り希望に添った対応が出来るように努めているが、その時々のご利用者の状態や人員などの都合で出来ない面がある。</p>	
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	(自己評価)	
			<p>2～3日ごとに入浴できるよう支援されている。介護度が重度で、職員が2名で介助しても安全な入浴が難しいような場合は、シャワー浴を支援されている。入浴を嫌がる方には「足湯をしましょう」と声をかけ、浴室までお誘いすると、入浴につながるようなこともある。</p>	
			(外部評価)	
			<p>室温や環境を整え安眠できるよう支援している。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>室温や環境を整え安眠できるよう支援している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>室温や環境を整え安眠できるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の服用している薬の情報シートを介護記録に挟み、必要に応じて各職員が確認し対応できるように努めている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の状態に応じて、日々の中で少しでも楽しみが持てるように、またご家族の援助もいただきながら外出など気分転換できるように努めている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その時々々の個々の状態に合わせて、行事を企画して出かける楽しみが持てるように取り組んでいる。希望があれば、可能な限り個別に添えるようにご家族と協力しながら支援に努めている。	
			(外部評価) イチゴ狩り等、季節の外出や回転寿司等の外食を楽しんだりされている。座位保持の難しい利用者は、リクライニングできる車椅子を使用して、ベランダで日向ぼっこする等して、少しでも外に出られるよう支援されている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 所持の希望がある場合、その方の力に応じて可能な限り支援できるように努めている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) その方の力に応じて工夫し、出来るように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 転居して半年。居心地よく過ごせるよう取り組んでいるが、より工夫していく必要がある。	
			(外部評価) 移転につき、事業所はワンフロアの事業所となり、利用者が一同に集まる居間ができ、みなでおしゃべりしたりお茶を楽しんだりされている。ベランダは広い造りで、夏には日よけを兼ねて朝顔やゴーヤを植えて、グリーンカーテンを作られた。段差のあるところには、利用者に分かりやすいように赤いテープを貼っておられる。ソファの横には雑誌や新聞を置き、職員は、利用者の趣味や興味のある本をすすめておられる。壁には、利用者が作った日めくりカレンダーを掛けておられた。「トイレが寒い」と、利用者から意見があり、トイレ内に暖房器具を設置して暖かくされていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ハード面での制約もあるが、食堂兼リビング以外にも、廊下などにソファやイスを配置し、程よい距離感が持てるように努めている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) その方に応じて、居心地よい空間作りに努めている。	
			(外部評価) ご自宅で使用していたタンスを持って来られていたり、以前、海外旅行に行った時の写真や家族写真を飾っておられた。居室で過ごすことの多い利用者の居室には温度計が設置されており、室温にも気を付けておられる。又、病状が優れずベッドで過ごす利用者には「少しでも刺激を」と、職員が紙で鳥を作り、天井から吊り下げて、動く様子が見れるようにされていた。タンスの中のものを出して、タンスが倒れる心配がある方は、タンスをクローゼットの中に入れて使用されていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 転居して半年になり、トイレと分かるような表示や段差には目立つ色のテープを貼ったりと工夫に努めているが、十分とはいえないところもある。今後の課題である。	